

講義概要

科目名	講義概要
保健科学総論特殊講義 (保健医療学)	保健医療学は、保健と医療の根源的な「問い」に対してアプローチする学問である。さまざまな保健・医療活動を通して人々の疾病予防や健康増進について学習する。一方、保健医療学は生命科学とも密接に関わっている。本講義では、幅広い論文や参考文献を読み、保健医療学と生命科学における最新の情報と課題について考察を加える。
保健科学総論特殊講義 (臨床遺伝学)	ヒトゲノム研究が進んで、ヒトゲノム構造が決定され、ポストゲノムの時代といわれます。しかし、基礎となる疾患遺伝子の同定の出発点は臨床遺伝学です。先天異常の一般発生頻度は100人に2~3人と少なく、しかも遺伝性疾患だけでもMcKusickのカatalogによりますと10,000種類以上と種類が多いのが特徴です。本講義によって、先天異常のとらえかた、診断、治療などについて理解します。
保健科学総論特殊講義 (医療機器安全工学)	医療機器を安全に効率的に使用することは医療経済においても重要であるが、最も重要視されなければならないのは患者安全である。安全対策も種々あるが、ここでは安全対策の1つの分野として、ヒューマンファクターエンジニアリング(HFE)の重要性、実現、評価に関する研究力を習得する。
機能障害学特殊講義 (言語聴覚障害学)	聴覚補償機器の一つである補聴器および人工内耳の(リ)ハビリテーションについて、研究の歴史と近年の動向、今後の展望について体系的に学ぶ。まず、補聴器・人工内耳装用候補者の評価と補聴器・人工内耳の調整について最新の知見を学ぶ。次に、装用後の聴覚(リ)ハビリテーションにおけるコミュニケーション指導の重要性について検討する。さらに、補聴器・人工内耳の装用効果を評価する方法として、語音聴取能力の評価法と質問紙法による自己評価を取り上げ、それぞれの評価法の意義と課題について考察する。
機能障害学特殊講義 (知的発達障害学)	機能障害のなかで、精神遅滞をテーマにします。脳科学の分野における最近の発達はめざましいものがあります。脳の構造だけではなく機能面でも新しい知見が次々に明らかにされています。精神遅滞児の臨床においては、小児科医や小児精神科医のみではなく、教育、心理、福祉、保育、言語治療、看護、リハビリテーション、行政など多くの職種の方々のかかわりが必要です。本講義では精神遅滞児の診断、成因、養育の方法について最近の新しい脳科学の知見と組み合わせて学びます。
機能矯正学特殊講義 (疾病制御循環器学/ 生体制御循環機能学)	ヒトの機能矯正の総論的なことを十分に把握していることを前提に、科学的に事象を分析して、客観的に批評できるような考え方を習得することを目標とする。医療にかかわる一人のプロフェッショナルとして得意な生体機能の矯正機器(ひとつまたは、複数)に関して、立案、データ収集、結果作成、考察までの一連の流れを参考英語論文等を用いて通読、精読して、そのノウハウを学修することを目標とする。
精神医学特殊講義 (精神医学)	保健の重要な局面である精神保健について、今日的意義、ライフサイクルにおける精神保護の役割、生活の場における精神保健の役割ならびに精神障がいについて学習し、他の種類の障がい、特にその矯正における場合との関連性についての知識の獲得は、問題の解決に大いに応用されるものである。

科目名	講義概要
機能形態学特殊講義 (細胞・組織病態学)	腎臓は多数のネフロンから構成され、尿の生成以外に多様な機能を有し、生命維持に重要な重要な役割を果たしている。ネフロンの前駆細胞は出生前に消失し、ネフロンが出生後に腎疾患による過度な障害を受けると、腎機能は不可逆的に障害され死に至る。末期腎不全患者が生存するためには、現在のところ人工透析が腎移植しか方法がなく、再生医療などの第3の選択肢となる治療法の開発が急務とされている。本講義では、最近、腎臓再生医療の実現として進展している様々な手法を学習する。
臨床薬理学特殊講義 (生体制御薬理学)	人の流入が盛んな現代、遠い地域や国で発生した感染症が、数日で私達の生活域に到達することが可能である。すなわち、ニュースで報じられた新たな感染症も短期間で身の回りに出現することができる。これらの感染予防とその対策の知識は、保健科学領域や医療関連業務に従事する者にとって特に重要である。本講義では、ワクチンや消毒薬を含めて、感染症対策に利用される抗病原微生物薬を幅広く解説する。特に、めざましい治療成績をあげている新規抗ウイルス薬については、開発経緯まで踏み込んで解説をしていく。
感染症学特殊講義 (生体制御微生物学)	感染症には「伝染する」という他の疾患にない特徴がある。感染症の成立には、①微生物、②宿主の感受性、③感染経路の三つの要因が必要である。従って、感染症対策はこの三者が対象となる。本講義では、病原微生物の種類と特徴、主な感染症並びに感染症の有効な対策について学修する。病原微生物を科学的に理解し、それを職場や日常生活の中で科学的な見地から感染症対策に活用できるようになることを目標とする。
感染症学特殊講義 (感染症学)	古来より、感染症は人類にとって大きな脅威であった。それは、医学が発展した現代でも同じである。近年、グローバル化に伴い世界ではエボラ出血熱あるいは新型インフルエンザ等様々な感染症の脅威にさらされている。また、我が国においても様々な感染症の流行が確認されている。例えば、結核等過去の病気と考えがちな感染症が蔓延しつつある。一方で、デング熱等新たな流行も確認されている。本講では、このような感染症の実態と予防、最新の治療法を学習する。
免疫学特殊講義 (生体制御免疫学)	免疫システムは、自己が非自己（異物）を認識し排除する生体防御機構である。本講義では、生体制御免疫学の立場から免疫の異常で発症する自己免疫疾患について、自己免疫疾患の病態、自己免疫疾患の遺伝的多型性、自己免疫疾患の最新検査法、自己免疫疾患の最新治療法、自己免疫疾患の社会支援体制について学習する。
機能障害学各論特殊講義 (生命維持管理装置学)	慢性腎不全患者の原疾患比率は、糖尿病性腎症がトップである。透析導入時には四肢不自由、視覚障害を伴うことが多く、身体機能低下症例がほとんどといえる。また、これら患者は高齢化しており、身体的および精神的負担も多い。そのような状況下で、患者QOLを維持するためにはどのような対策が望ましいのか、医療機器を含めた時代に即した考えをまとめ、自身の臨床業務に反映させることを目的とする。
機能障害学各論特殊講義 (リハビリテーション科学)	機能障がい（ICF（国際生活機能分類）による生活機能障がいの視点からとらえ、ICF分類の妥当性の検証とともにそこに存在する身体的・精神的機能との関係から、生活障がいの本質と関連要因の分析を試みる機会とする。
機能障害学各論特殊講義 (病態細胞生物学)	多くの病気は、細胞の機能が傷害されることによって起こる。病気の細胞生物学的原因を解明し、治療に寄与することを目標とする。

科目名	講義概要
機能矯正学各論特殊講義 (医療管理学)	機能障害学各論によって得られた知識を基に I C F 分類の妥当性を検証する方法を検討し、それによって得られたことを根拠として個々の障がいに対する治療訓練法の効果について考える機会とする。特に、高齢者の増大に伴って発生頻度が高くなる脳血管障害や痴呆などの脳・神経系疾患を中心に講義を進める。
機能矯正学各論特殊講義 (疾病制御呼吸・循環機能学 ／生体制御医用代行機器学)	主要臓器（循環器、呼吸器、代謝内分泌関連臓器）の障がいをここでは取り扱う。各種臓器機能は低下していくが、その過程は、急性、亜急性そして、多くは慢性といった経過をたどる。その中で、代償的機転が作用して維持していくこともある。その変化は徐々に認められることも多く、次に必要な検査、診断評価、さらには治療を必要とするのかを考えることが、個人、家族、社会、医療経済を含め重要となってくる。また、人工臓器、臓器移植といった治療が、諸外国と比較して現状と将来的にどうあるべきかを個人、家族、社会、医療経済にあたえるインパクトや倫理的配慮について総合的に判断していく課程を学修する。
保健科学特殊研究	研究を行うのに必要な手続きや手法について院生に指導し、院生の研究の成果を論文として纏める。具体的には、博士論文作成のための先行研究について指導を行い、学生の思索能力を高める。文献の講読を行いながら、仮説を立案し、リサーチを行う院生には調査の計画を、文献研究を考えている院生にはその構想を立案させ、その研究の進捗状況に沿って集中的に必要な指導と援助を行う。